

噴門側胃切除後の自動縫合器を用いたロボット支援下食道-残胃吻合（double flap technique）における術後成績の検討

本学で実施しております以下の研究についてお知らせいたします。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。ただし、下記の通り、匿名化を行いますので匿名化される前に参加拒否の申し出があった場合にのみ対象者から除外します。

研究課題名	噴門側胃切除後の自動縫合器を用いたロボット支援下食道-残胃吻合（double flap technique）における術後成績の検討
倫理審査受付番号	第 3365号
研究期間	2019年11月倫理審査承認日～2020年12月31日
研究対象情報の取得期間	下記の期間に上部消化管外科を受診された胃腫瘍の方 2018年 7月 1日～2019年 9月30日
研究に用いる試料・情報	カルテ情報

研究概要

(研究目的、意義)

噴門側胃切除後の再建において、自動縫合器を用いた食道-残胃吻合 (double flap technique) をロボット支援下で行ったその成績を明らかにすることが目的です。

(研究の方法)

2018年7月1日～2019年9月30日に当科で施行したロボット支援下噴門側胃切除術を行った患者様を対象とし、術後の吻合部合併症の発生割合を検討します。収集するデータの項目は、年齢、性別、BMI、併存症、病変の部位、臨床および病理分類、術後吻合部合併症の有無、術後各種合併症の有無、入院期間、経口および飲水開始時期、術後の諸検査所見です。

(個人情報の取り扱い)

収集したデータは、誰のデータか分からないように加工した (匿名化といいます) 上で、統計的処理を行います。国が定めた「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。そのため、匿名化される前に参加拒否の申し出があった場合にのみ対象者から除外します。

本研究に関する 連絡先

兵庫医科大学病院 上部消化管外科

篠原 尚 (研究責任者)

石田 善敬 (研究担当者)

TEL | (平日 9:00～17:00) 0798-45-6725(上部消化管外科 医局直通)